

2008～2010年度 CHQ 各種支援制度 ～現状の評価／今後の方向性～

	～2007年度	2008～2010年度	
	現状の評価（成果と課題）	今後の方向性	補助金額の考え方
M3 「JFA キッズプログラム」の推進	<ul style="list-style-type: none"> 各種取り組みの充実度に若干ばらつきがあるものの、全都道府県協会にて「モデルFA制度」が活用された。 各都道府県内においても、市区郡町村で活動が均一に行われる様、子供たちどこにいても同様のサービスが受けられる様に目指していく。 長期的目標として自主採算運営を目指しているが、支援制度による補助金をベースとした事業運営が多いので、自主採算運営を念頭においた事業計画を行う様推進していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「JFAキッズプログラム」の活動が各都道府県内で広く展開されることを目標とする。 選定基準となる主要テーマは概ね変更しない。 特に、自主採算運営をベースとした事業運営に移行することを奨励し、この支援を積極的に行う。 補助金総額を維持しつつも全国で同規模の取り組みを展開するために、1協会あたりの補助金額に対して、2008～2010年にかけて段階的に上限を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 補助対象： 1協会につき1申請のみ（3年計画） 補助金額(上限)：08年／700万円 09～10年／各500万円 補助年数： 単年
M4 中学生年代の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 「トライアルFA」支援制度を通じ、27都道府県協会と協働体制を整え、様々な取組みを通じ課題の解決や情報共有を図った。 登録選手・チーム数では活性化が果たされているものの、学業や公務との関係性、関係者（特に中学校部活動指導者）が抱える問題はまだまだ多く存在しており、環境の整備を推進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生年代の取り巻く環境を充実させるため、この支援制度が全都道府県で活用されることを目標とする。 選定基準となる主要テーマは概ね変更しない。 特に、「①1年生前半／3年生後半でのプレー機会（練習会を含む）の確保／増加②中学校（部活動）でのサッカー専門指導者不足への対応」に対しての支援を積極的に行う。 補助金総額を維持しつつも、全国で同規模の取り組みを展開するために、1協会あたりの補助金額に上限を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 補助対象： 1協会につき1申請のみ（3年計画） 補助金額（上限）：08年／50万円 09年／40万円 10年／40万円 補助年数： 単年
M5 エリート養成システムの確立	<ul style="list-style-type: none"> 各種取り組みの充実度に若干ばらつきがあるものの、27都道府県協会にて「リードFA制度」が活用された。 キッズ年代のエリート教育の取り組み意義を更に浸透させ、キッズ年代エリートプログラムを全都道府県に展開していく必要がある。 エリート教育に関して、まだキッズから4種・3種への連携が確立されていない都道府県が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 「JFAキッズプログラム」の活動が充実していることを前提に、キッズ年代のエリート教育が広く展開されることを目標とする。 選定基準となる主要テーマは概ね変更しない。 特に、キッズ年代から4種・3種年代へスムーズに移行できる様な一貫性を持った活動を奨励し、この支援を積極的に行う。 補助金総額を維持しつつも全国で同規模の取り組みを展開するために、1協会あたりの補助金額に対して、2008～2010年にかけて段階的に上限を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 補助対象： 1協会につき1申請のみ（3年計画） 補助金額(上限)：08年／200万円 09年／150万円 10年／120万円 補助年数： 単年
M6 女子サッカーの活性化	<ul style="list-style-type: none"> 1協会複数企画を採用したことにより、全国一律ではなく、各都道府県の実情に合わせた活動が展開され、多くの事業を支援することができた。 プレーを希望する女子が年代を過ぎて継続して活動できる環境が希薄になっているので、整備に向け取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 女子を取り巻く環境を充実させるため、この支援制度が全都道府県で活用されることを目標とする。 選定基準となる主要テーマは概ね変更しない。 特に、「キッズプログラムに参加した女子のその後の受け入れ」に対しての支援を積極的に行う。 補助金総額を維持しつつも、全国でより多くの取り組みをサポートするために、1企画あたりの補助金額に上限を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 補助対象： 1協会につき複数申請可（3年計画） 補助金額(上限)：08～10年／各50万円 補助年数： 最大3年（年度毎に補助額見直し有り）
M7 フットサルの普及推進	<ul style="list-style-type: none"> 1協会複数企画を採用したことにより、全国一律ではなく、各都道府県の実情に合わせた活動が展開され、リーグ戦が多く新設された。 民間施設を活用した取り組みが希薄になっているので、民間施設等と連携を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> フットサルを取り巻く環境を充実させるため、この支援制度が全都道府県で活用されることを目標とする。 選定基準となる主要テーマは概ね変更しない。 特に、「民間施設施設との協力体制の構築」に対しての支援を積極的に行う。 補助金総額を維持しつつも、全国でより多くの取り組みをサポートするために、1企画あたりの補助金額に上限を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 補助対象： 1協会につき複数申請可（3年計画） 補助金額(上限)：08～10年／各50万円 補助年数： 最大3年（年度毎に補助額見直し有り）
M8 リーグ戦の推進と競技会の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> 支援制度を通じて、全都道府県において、2・3種年代のリーグ戦が実施される様になった。 リーグ戦を推進することで、過密日程や様々な団体が主催するリーグ戦が新設される等問題が新たに提起されたので、それを解消するために、「2・3種年代の年間・能力別リーグ戦」設立への理解を広く浸透させることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでのJFA内での2・3種年代の都道府県リーグ戦に対する各種補助金を精査し、一つの支援制度として確立する。 選定基準となる最重要テーマは、①「2・3種年代」（他の種別は対象外）、②「年間を通じた」、③「能力別」、④「複数チーム」の各事項を満たすこととする。 連盟別の大会（総体予選・全国中学校大会都道府県予選・全国クラブユース（U-18/15）選手権予選他）は対象外とする。 その他のリーグ戦については、2010年までに最重要テーマに沿ったリーグ戦に統合することを原則として、限定的な支援を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 補助対象： 原則として、1協会につき1申請のみ（3年計画） 補助金額(上限)：08～10年／各300万円 補助年数： 単年
M9 地域／都道府県協会の活性化（チャレンジFA）	<ul style="list-style-type: none"> 36の地域・都道府県協会が「チャレンジFA制度」を活用し、目標設定や重点事業に対し、独自の施策を立て、日本サッカーの新たな取り組みを行った。 地域・都道府県協会の更なる充実を図るために、様々な事例紹介や情報提供を積極的に行うと共に、各協会からの新たなチャレンジや新企画等に対してサポートする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> この支援制度が多くの地域・都道府県で活用され、新たな企画・発案等により自発的かつ積極的な活動に対してサポートすることを目標とする。 選定基準となる主要テーマは概ね変更しない。 特に、「日本サッカーの新たな取り組みとして、他の地域／都道府県協会の参考・模範となる新たなチャレンジや新企画等」に対しての支援を積極的に行う。 補助金総額を維持しつつも、全国でより多くの取り組みをサポートするために、1企画あたりの補助金額に上限を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 補助対象： 1協会につき複数申請可（3年計画） 補助金額(上限)：08～10年／各100万円 補助年数： 最大3年（年度毎に補助額見直し有り） ※2006年度認定の11FAは2008年までの支援とする。
M9 シニア年代の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 28の地域・都道府県協会が「トライアルFA制度」を活用し、この年代の活性化に向けて取り組みを行い、シニア登録数の増加や競技会が多く開催された。 各地域・都道府県協会の更なる充実を図る上では、競技会開催だけでなく、経験豊富かつ運営ノウハウを熟知したシニア年代の関係者が、グラスルーツ活動をはじめとする様々な活動機会において広く登用されることを推進していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> シニア年代の関係者が、プレー機会のみならず、地域／都道府県協会の更なる充実のため幅広く活動できる機会を得られる様、この支援制度が全地域／都道府県協会でも活用されることを目標とする。 選定基準となる主要テーマは概ね変更しない。 特に、「シニア年代の関係者が、グラスルーツの活動において指導者・大会役員・運営スタッフ等、地域／都道府県協会の関係者として広く登用される環境を整備する」ための取り組みに対しての支援を積極的に行う。 補助金総額を維持しつつも、全国で同規模の取り組みを展開するために、1協会あたりの補助金額に上限を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 補助対象： 1協会につき1申請のみ（3年計画） 補助金額(上限)：08～10年／各25万円 補助年数： 単年
M9 タスクフォース	<ul style="list-style-type: none"> 「組織機構改革」については、様々な問題に対して積極的に解決を図ることにより、市区郡町村協会との関係が少しずつ構築された。 「登録推進」については、市区郡町村協会との関係構築が重要であることが認識された。 各都道府県内での支部・地区協会／市区郡町村協会との連携強化や組織体制の充実・整備、また未登録チームの登録推進を行うためには、都道府県の下部組織への様々な取り組みに対して継続したサポートが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 支部／地区協会、市区郡町村協会の活性化を図るために、この支援制度が全都道府県にて活用されることを目標とする。 選定基準となる主要テーマは「組織」と「登録」とし、概ね変更しない。 特に、①組織体制整備、②登録推進、③グラスルーツ活動における競技会の整備、④サッカーファミリーの拡大にむけた取り組み、に対しての支援を積極的に行う。 補助金総額を維持しつつも、全国で同規模の取り組みを展開するために、1協会あたりの補助金額に上限を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 補助対象： 1協会につき1申請のみ（3年計画） 補助金額(上限)：08～10年／各100万円 （北海道のみ4県分：400万円） 補助年数： 単年